

国土審議会計画推進部会

稼げる国土専門委員会

ダイバーシティで

イノベーションを育むまちづくり



めがねのまちさばえ

Sabae Japan Eyeglasses



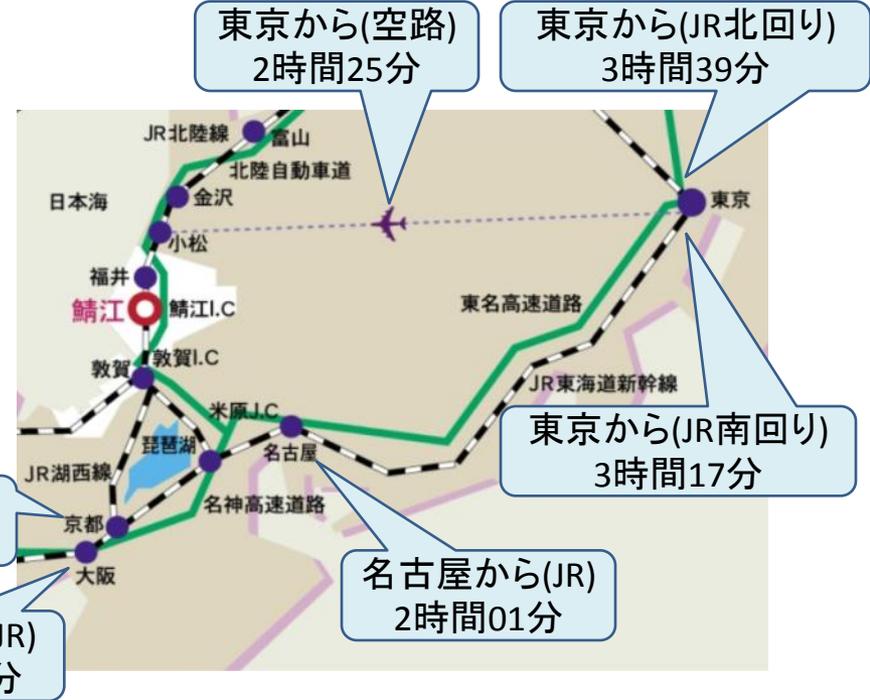
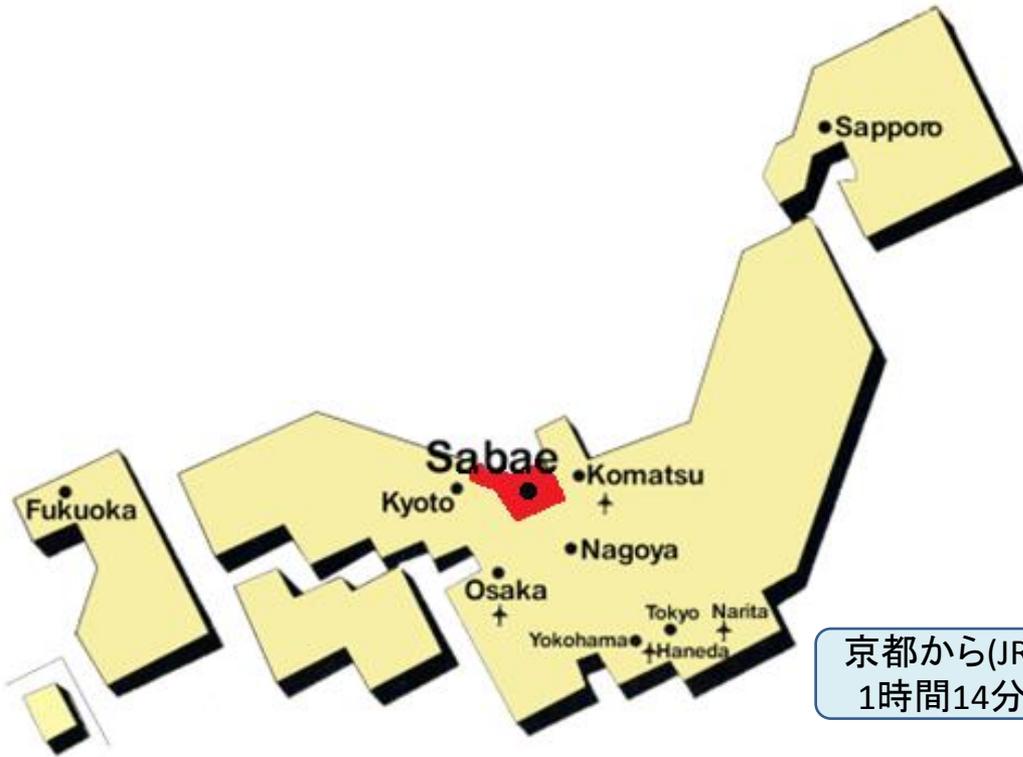
12月18日(火)

本日のお話の内容 . . .

- 1 鯖江市の概要
- 2 域外の企業・大学等と連携した
既存産業技術の活用
- 3 ダイバーシティのまちづくり



鯖江市とは・・・

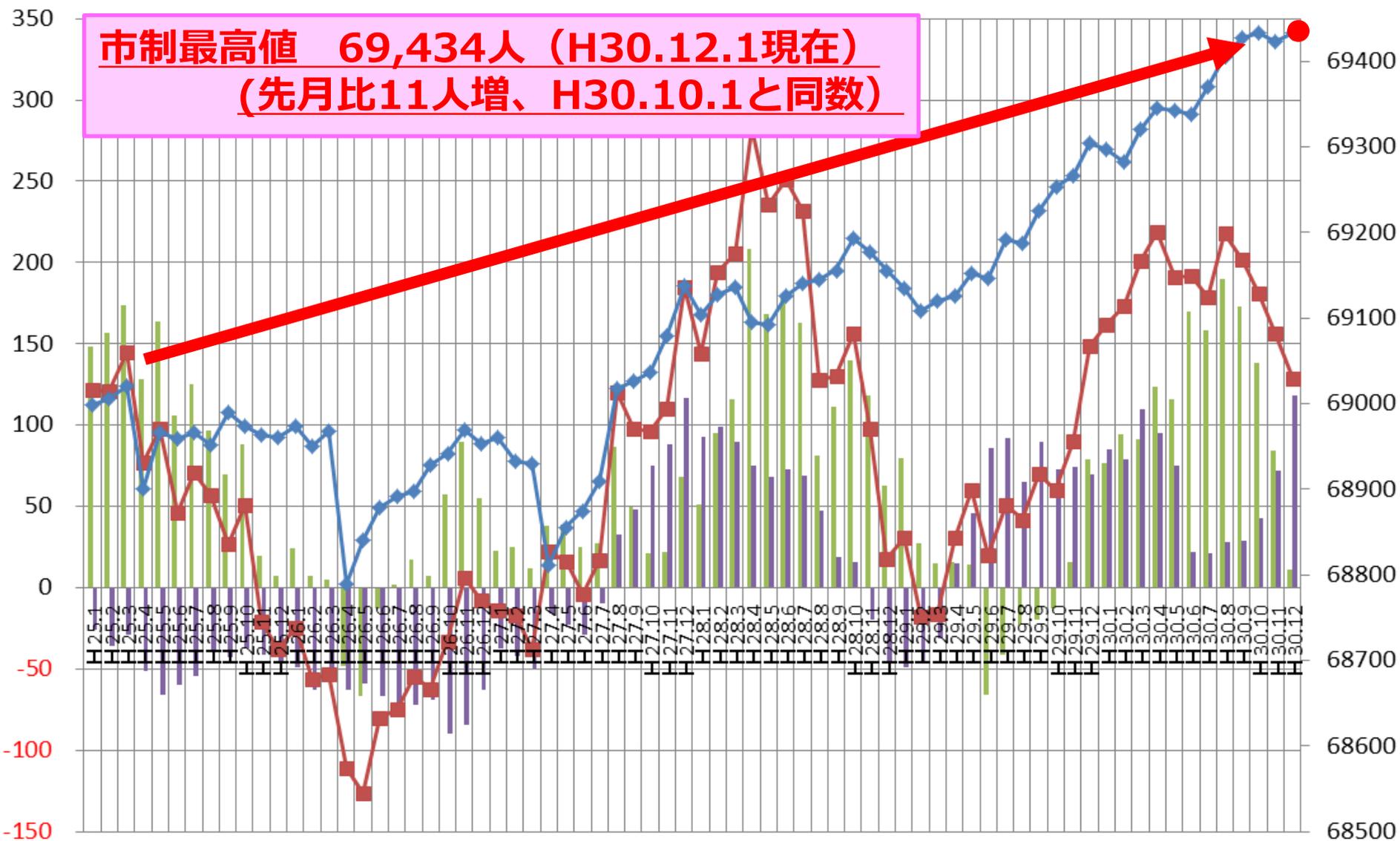


- 面積：84.59 k² (県内で2番目に狭い)
- 人口：69,434人(平成30年12月1日現在、人口が増え続けているまち)
- 人口密度：817.4人/k² (県下ダントツNO1)
- 眼鏡、繊維、漆器 三大地場産業に特化したものづくり産業のまち
- 鯖江モデル(学生連携、市民主役、オープンデータ)で注目されているまち

人口が増えているまち

■ 前年同月比(日本人) ■ 前年同月比(外国人) ■ 前年同月比(市全体) ◆ 総人口

市制最高値 69,434人 (H30.12.1現在)
(先月比11人増、H30.10.1と同数)



ものづくりのまち

眼鏡産業

100年以上の歴史を持つ。鯖江産地の始まりは明治38年。
「眼鏡フレーム」の国内製造シェア**約9割**を誇る眼鏡産地。

漆器産業

約1500年の歴史と伝統を有する産地。高度成長期に業務用漆器分野に進出。業務用漆器の**8割以上**の生産シェアを誇る。

繊維産業

1134年に河和田荘で「八丈絹」を盛んに生産していたことを示す文献が残る。
ナイロン、ポリエステル等の合繊を中心とした産地。
医療、自動車シート、エアバック、コンピュータ部品等の多種多様な繊維製品を生産。



世界に誇れる技術力

ホスピタリティのまち

「お互い様」と「おもてなしの心」

- ・ 1995 (H 7) 世界体操競技選手権大会
- ・ 1998 (H10) 体操ワールドカップ決勝大会
- ・ 2018 (H30) 福井しあわせ元気国体・元気大会
- ・ 2020 (H32) 東京オリンピック

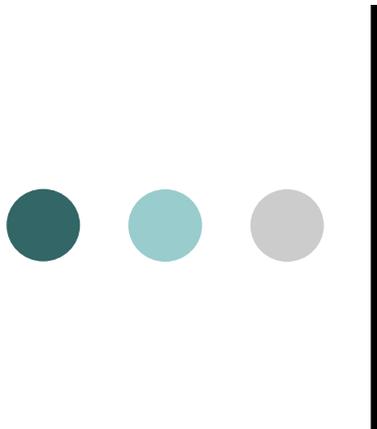
- ・ 1地区1カ国交流事業
- ・ 1人1役運動

アジア初の、しかも小都市での開催となった。1995年10月1日、サンドーム福井で開幕。この大会では56の国・地域から参加。開催期間中（10/1～10/10）は延べ3万人のボランティアが協力し、行政・市民が一体となった大会支援が行われた。

元気国体の鯖江市開催競技として、体操・新体操・なぎなたが行われ、245点を獲得するなど、福井県の天皇杯・皇后杯の獲得に大きく貢献した。

2020年東京オリンピック体操競技の中国ナショナルチームが鯖江で事前合宿を行うにあたり、歓迎イベント、相互訪問、市民レベルの文化交流などの事業を行う。



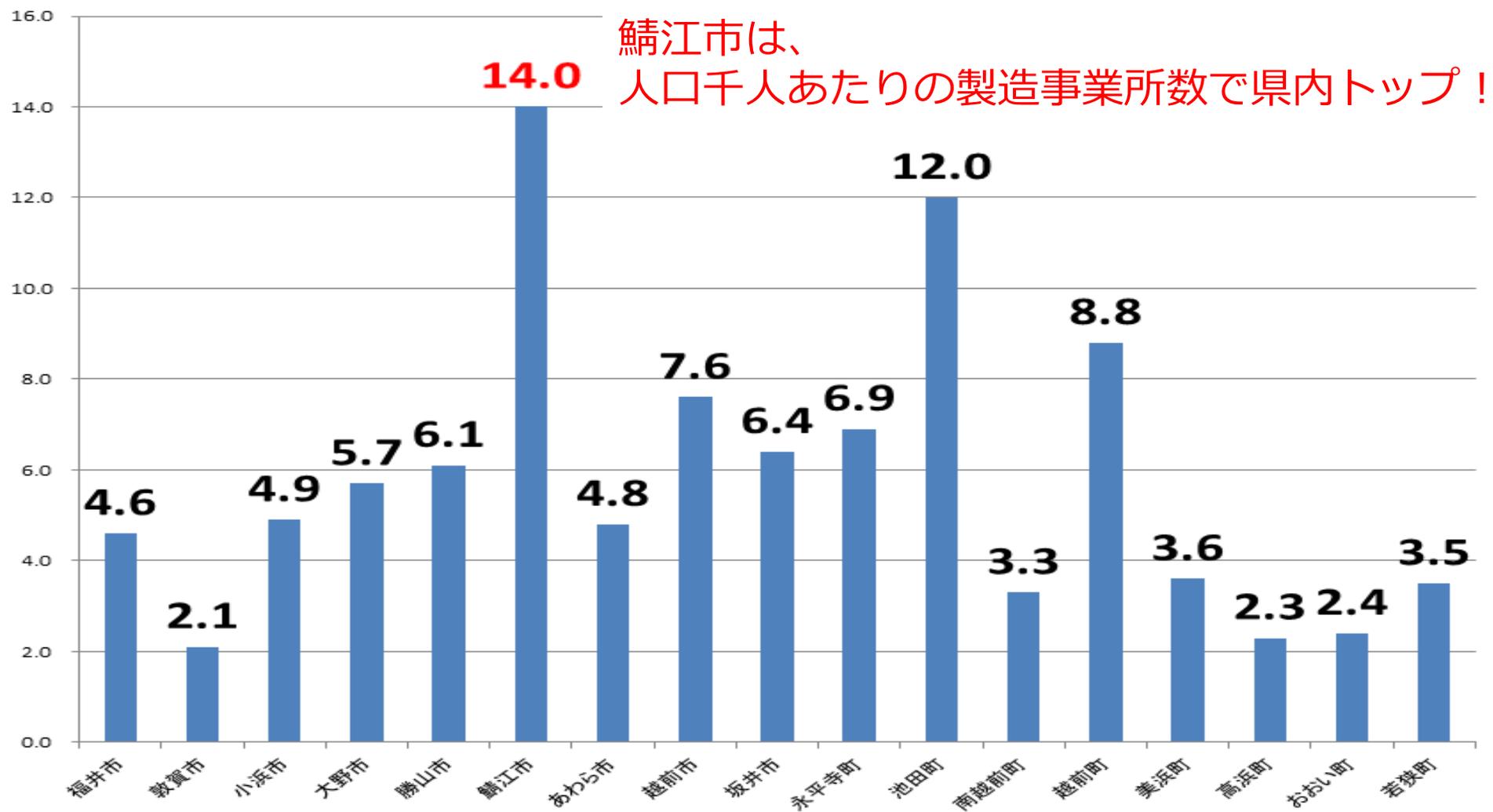


域外の企業・大学等と連携した 既存産業技術の活用

県内トップの製造事業所数と高い求人倍率

- ・人口千人あたりの事業所数は、福井県が全国1位（54.2事業所/1千人）
- ・福井県の有効求人倍率は、全国3位(2.06倍：2018年10月現在)

人口千人当たりの製造事業所数



出典：平成28年経済センサス活動調査製造業に関する結果報告書（福井県）

鯖江市の3地場産業の現状

全工業事業所に占める割合(平成28年6月1日現在)【 】内は、ピーク年の値・増減

- Point** ① 眼鏡・繊維・漆器の占める割合が大きい
② ピーク時と比べ、事業所は半減、従事者・出荷額は約4割減少

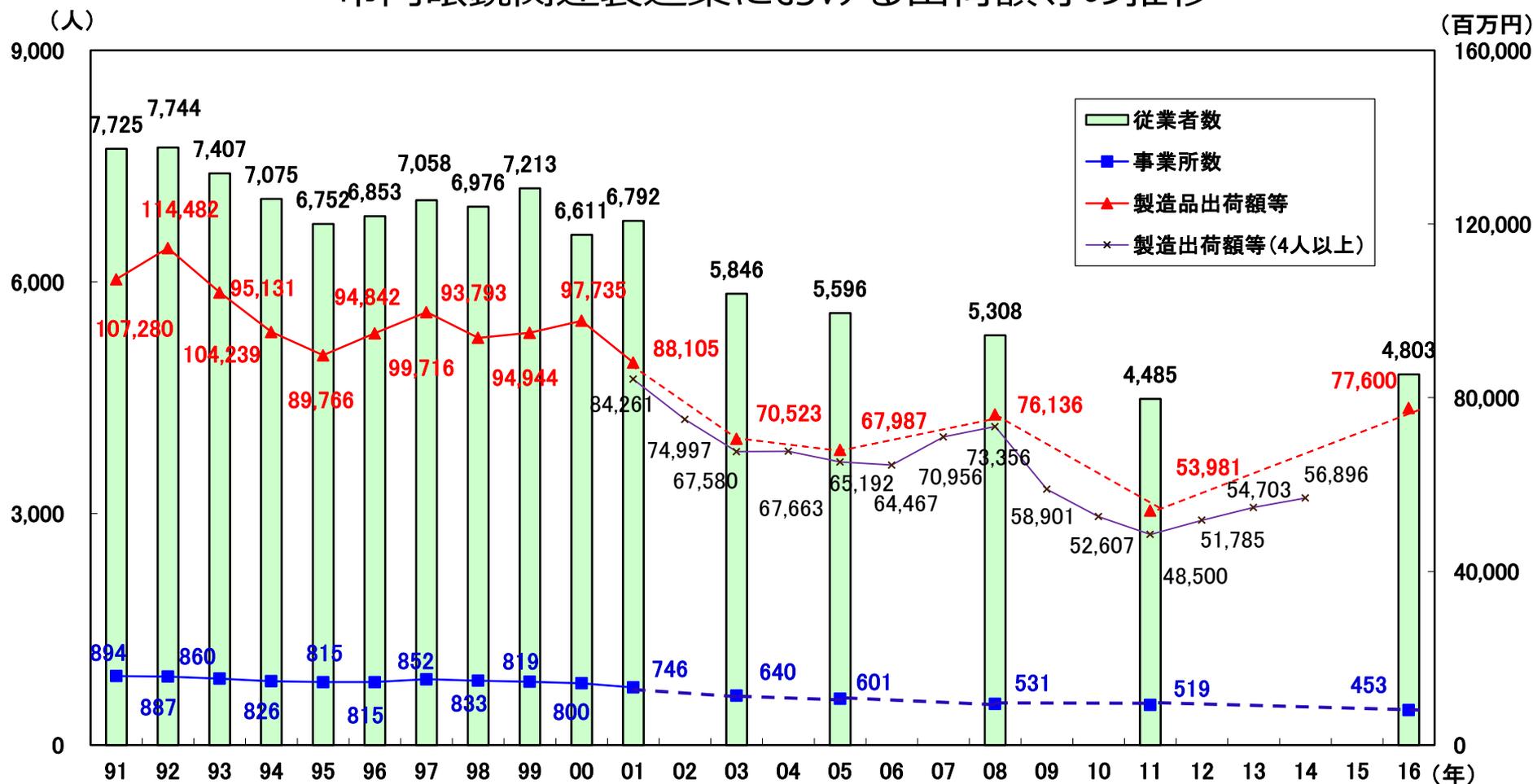
事業所数：	<u>全工業事業所</u>	961事業所	【1983年：1,877事業所/ <u>約49%減</u> 】
	眼鏡	453 (51%)	合計 759事業所 (<u>約79%</u>)
	漆器	211 (22%)	
	繊維	95 (10%)	

従業員数：	<u>全工業事業所</u>	9,804人	【1989年：16,617人/ <u>約41%減</u> 】
	眼鏡	4,803人 (45%)	合計 7,586人 (<u>約77%</u>)
	漆器	757人 (7%)	
	繊維	2,026人 (19%)	

出荷額：	<u>全工業事業所</u>	1,710億円	【1992年：2,715億円/ <u>約37%減</u> 】
(H28年)	眼鏡	776億円 (34%)	合計 1,252億円 (<u>約73%</u>)
	漆器	51億円 (3%)	
	繊維	425億円 (23%)	

鯖江の眼鏡産業の現状

市内眼鏡関連製造業における出荷額等の推移



出典： 経済産業省「工業統計調査」、経済センサス活動調査/鯖江市独自集計（全事業所）

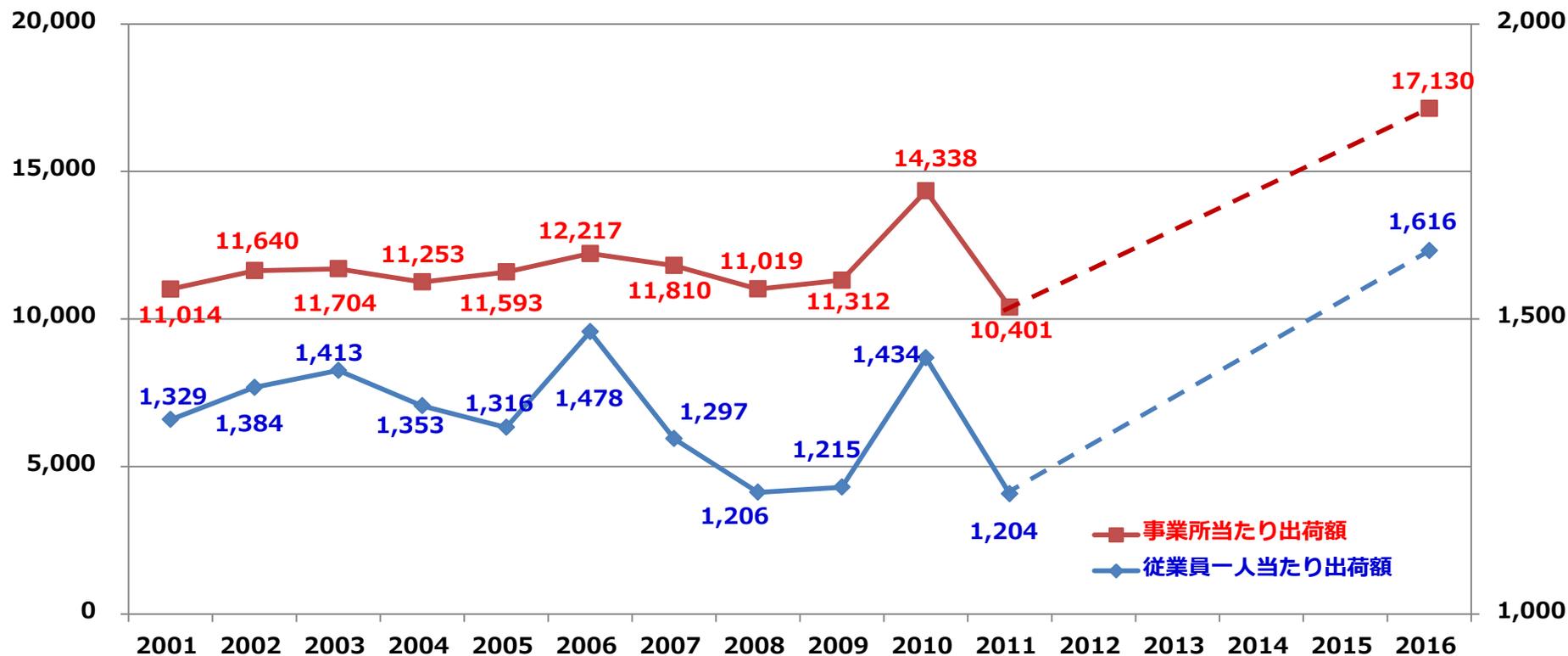
バブル崩壊以降の「内需低迷」「中国の台頭」「伊大手眼鏡企業による市場の寡占化」等により、

出荷額と従業員数は約4割減、事業所数は半減

2011年以降、出荷額は回復傾向に → 「**本製への回帰**」「**産地認知度の向上**」「**輸出需要増**」が要因

鯖江の眼鏡産業の現状

鯖江市の眼鏡製造業 1事業所、従業者1人あたり出荷額（万円）
（全事業所対象）



出典： 経済産業省 工業統計調査、経済センサス活動調査/鯖江市独自集計（全事業所）
2012～2015は、統計調査未実施のためデータ無し

一方で、1事業所、従業者1人当たりの出荷額は、ほぼ横ばいで推移

→ 産地は、衰退ではなく「縮小」

ゆえに、生き残った企業は力強い。

めがね産地「鯖江」の課題

- 「鯖江＝めがね」の認知度は、年々向上している一方、
「鯖江のあのブランドがいい」までには、まだまだ一般に浸透していない。
- モノ・サービスの質、知覚品質が、まだまだブランドコントロールできていない。
- 需要減少に伴い、生産縮小し続けてきたことで、産地の生産能力が低下
→リードタイムの増、国際競争力の低下、高齢化による技術承継難
- 高品質ゆえの高コスト→今や海外製でも当たり前品質に
- 機械力では今や中国が上→生産量が違うため設備投資しやすい環境有

このような中、

世界で通用する競争力ある商品をいかに生み出していくかが重要



高級品産地としての世界的なブランド確立を目指す！

鯖江市は、「2つの柱」で産業振興を目指す！

【方向性①】 既存産業の再生

- 今ある生産設備、人、販路等をそのまま活かして、販売力と収益力向上を目指す。
- ・産地企業のデザイン力・マーケティング力を強化し、ブランド力と収益性を向上
→ 「めがねのまちさばえ」としてのブランド確立により、地域全体の底上げを狙う



OEM主体の「作るだけの産地」から
自らが「売れるものを創り売る産地」への転換事業
(H20年～「めがねのまち鯖江」元気再生事業)



鯖江ブランドの確立とは？

認知獲得
(有名になる)

鯖江は、眼鏡、織
維、漆器の街だと多
くの人を知ること。

共感形成
(ファンをつくる)

鯖江の製品は、
世界一！と思う人が
沢山できること。

+

結果、鯖江の製品が沢山売
れ、街が活性化すること。

「めがねのまち鯖江」元氣再生事業（H20年～）

平成20年度「地方の元氣再生事業」（内閣府）の採択を契機に、「産地鯖江の再生」をテーマに事業展開中。

- ＜実施目的＞
- ・「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換によるOEM依存体質からの脱却
 - ・産業観光促進による「楽しめ・愛される産地」の実現

＜実施主体＞ 「めがねのまち鯖江」元氣再生協議会
(構成員：鯖江商工会議所、(一社)福井県眼鏡協会、鯖江繊維協会、越前漆器協同組合、鯖江市)

代々木競技場第一体育館（2009.3.7）

【取組例】

初年度に、

「東京ガールズコレクション2009春夏」と鯖江産地が製品開発・産地PRで協業

人気ファッションイベント×地方産地の組合せの新奇性で全国的な話題に！

以降、ファッション業界・タレント等との協業が次々実現。メディアへの露出も急増

→ 「眼鏡＝鯖江」の認知度が年々向上

産地経営者の意識変化にも結実



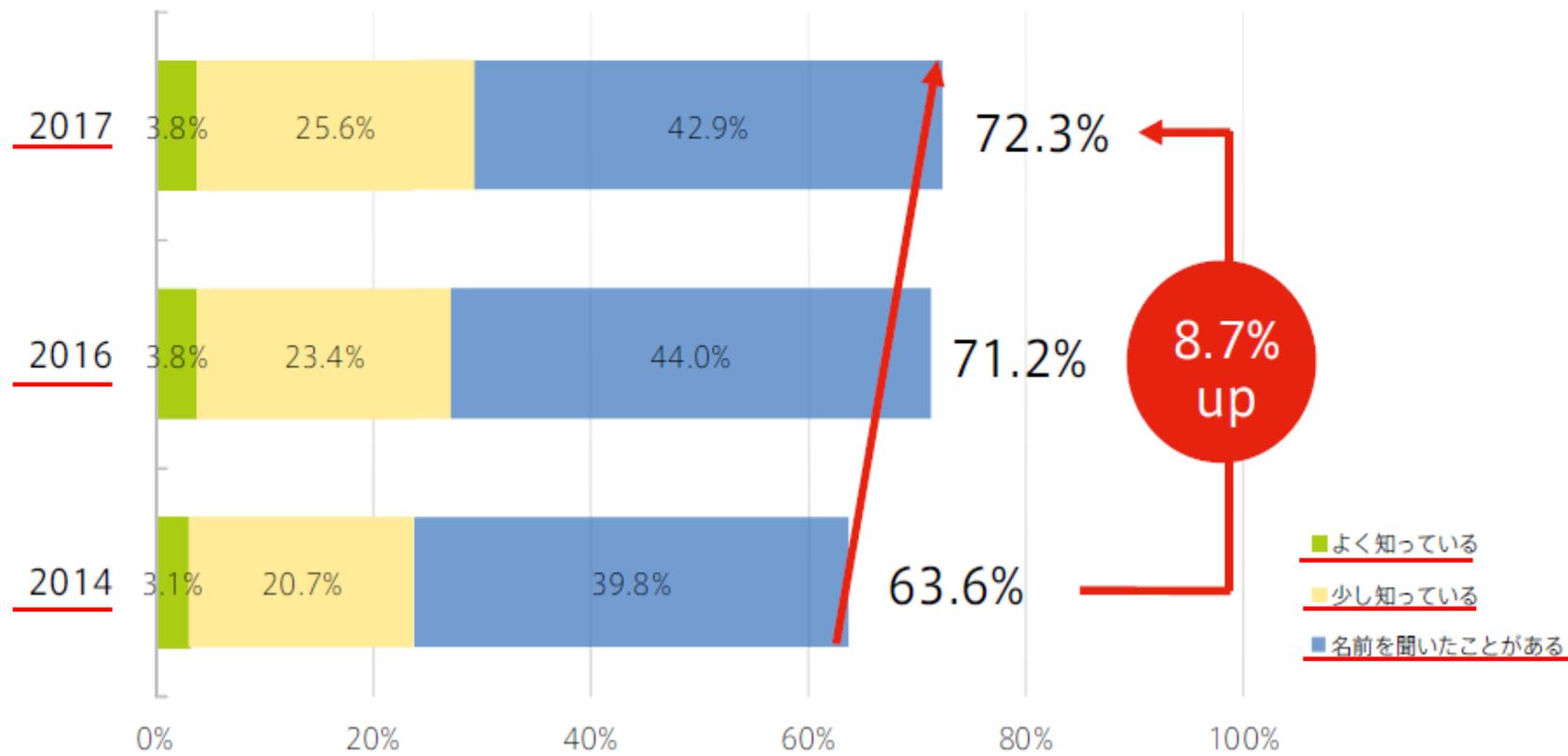
鯖江の認知度 (全国20-60代男女を1,000人を対象に、鯖江の認知度をWEBアンケートにより調査)

市では、2008年、2014年、2016年、2017年に、鯖江市と眼鏡の結びつきに関する認知度調査を実施。

(株)マクロミル社のネットリサーチを活用し、福井県を除く全国を対象に調査

Q2 あなたは「鯖江」について、どの程度ご存知ですか？
当てはまるものを1つだけお選びください。

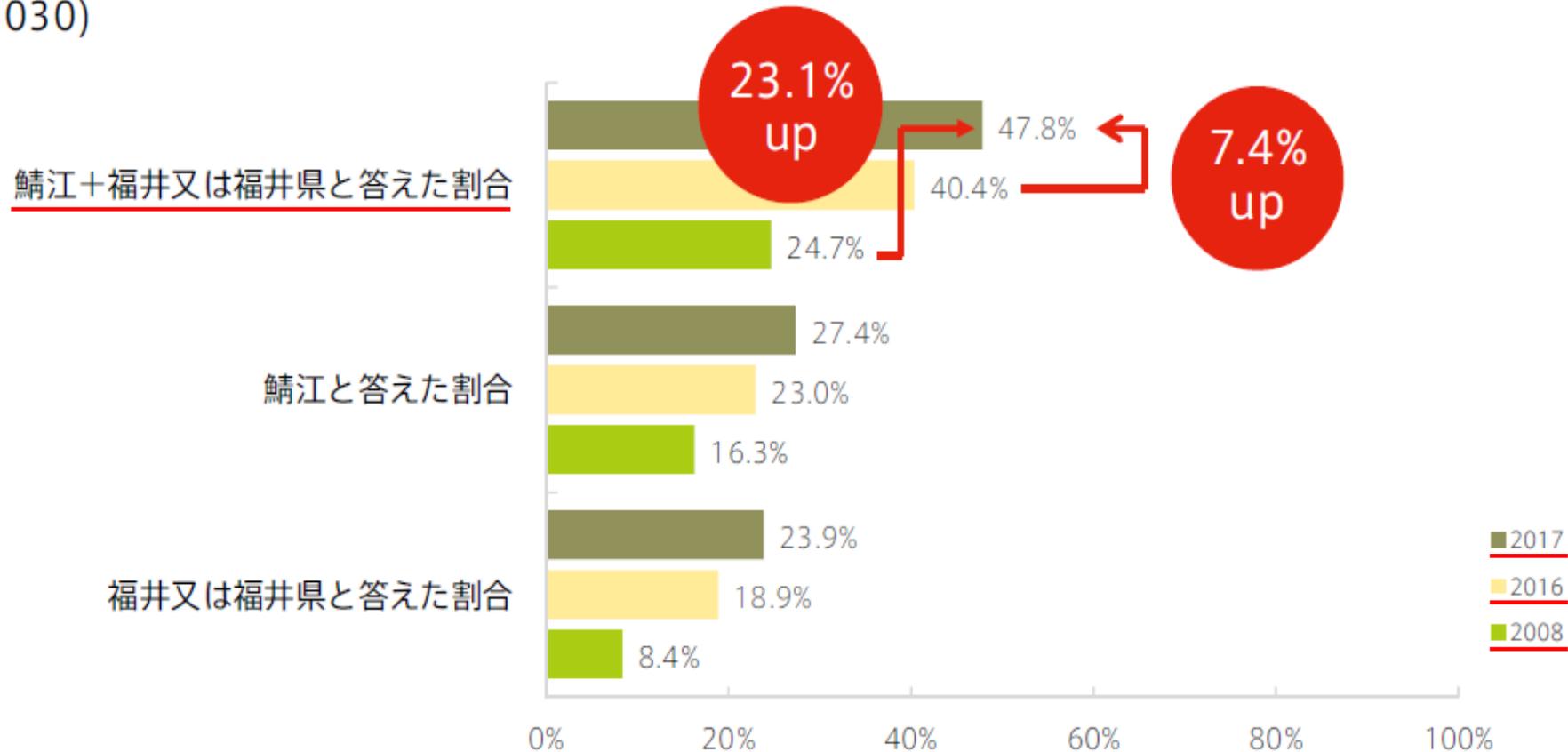
(N=1030)



鯖江の認知率は、7割以上 わずか3年で8.7%UP

Q1 日本において、眼鏡フレームの生産が一番盛んなところはどこだと思いますか？
それぞれお答えください。

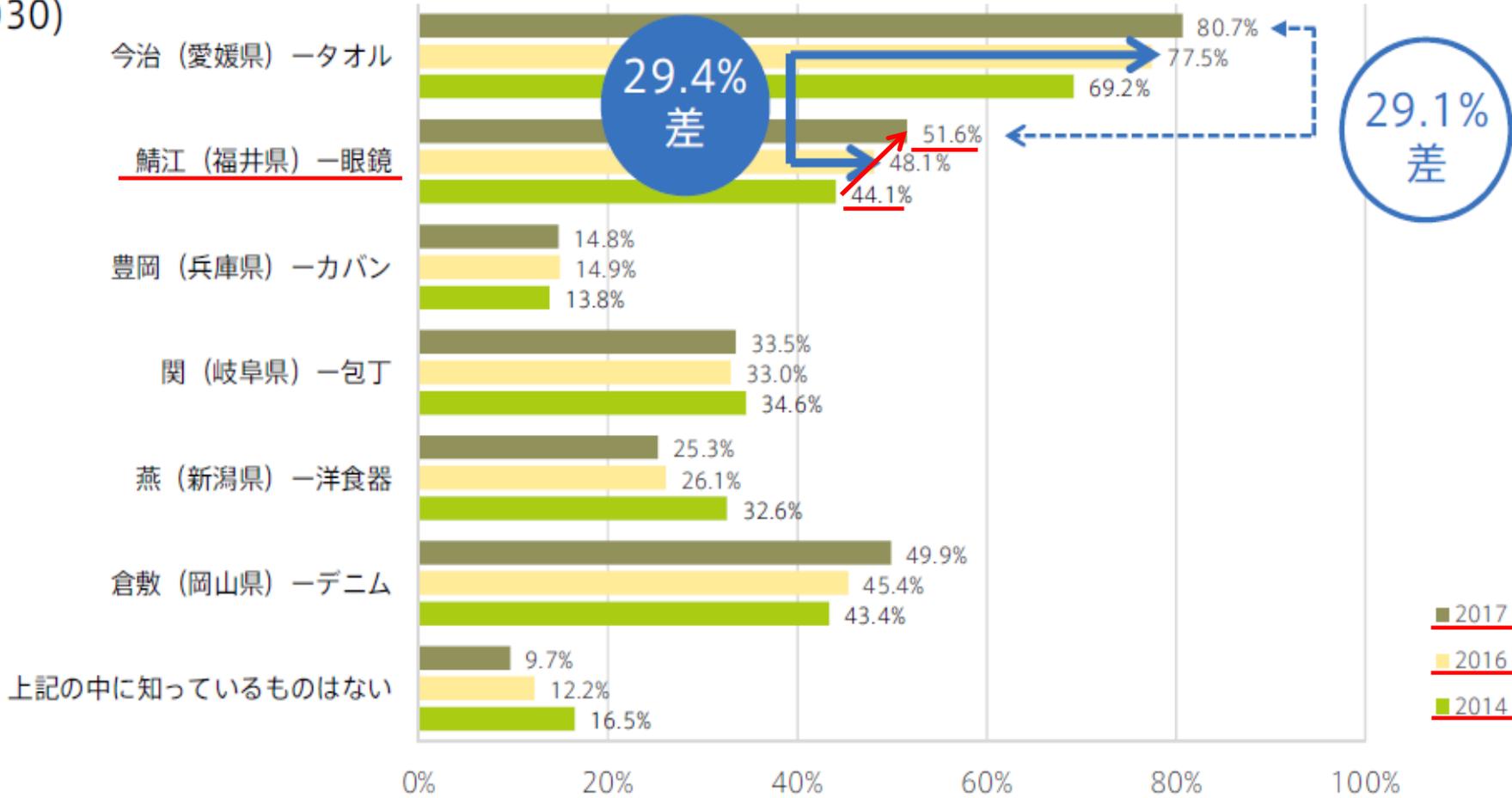
(N=1030)



もとより、
産地としての認知率は、2008年比(約9年間)で倍増(23.1%UP)
鯖江の方が、想起率は高い

Q7 以下に挙げられているものは、地域と産業の結びつきが強いものです。
この中からあなたがご存じのものをすべてお選びください。

(n=1030)



鯖江は、「今治」に次ぐ産地認知を獲得 2014年から3年間で、7%伸長

鯖江市の産業振興の「2つ目の柱」

【方向性②】 新産業の創造

地場産業で培った高度な加工技術を活かし、成長分野への参入を目指す。

産地中核企業の「新技術・新製品開発」「国内外の販路開拓」等を側面から支援。

→眼鏡・繊維・漆器の単産地から「成長産業を包含する複合産地」としての転換を目指す。



難加工金属(チタン等)の精密加工技術の集積等を生かした次世代産業創造支援(H27年～)



鯖江発スマートグラスのコンセプトモデル

カートインクック

地域資源を活かした成長分野参入支援（その1）

今後の市場成長が期待される

- ① 医療分野（例：チタン製高機能手術器具等、自動再加熱調理システム）
- ② ウェアラブル情報端末分野（例：スマートグラスのマウント等）

等の新分野参入強化を図ることで、新産地形成を目指す！

医療器具は人命に直結。ゆえに「機能性に優れた製品」=即「売れる」にはならない。

採用に至るには、使用実績・メーカーの認知度・信頼性が重要

後発組には、従来品を超える技術開発、試作提供、見本市継続出展等の先行投資が重要
→自走するまでには、多くの「時間」「人材」「資金」が必要

よって、

産地中核企業の「新技術・新製品開発」「国内・海外販路開拓」等に対し、補助金等により継続支援

(H28年～)



鯖江産医療機器例
眼科、脳神経外科用チタン製手術具



産地中核企業が世界最大級の
医療見本市MEDICAに初出展（H28～）



スマートグラスコンセプト試作品（H28）
村田製作所様×鯖江で官民協業開発

◆伝統工芸みらいプロジェクト

【H27～ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業】

日本の伝統産業に「デザイン」と「デジタル技術」を組合せて、新発想で地方創生を試みるプロジェクト

- ①プロジェクト拠点“COTOBA”開設⇒1名が常駐(H28.5.27～)
- ②新技術開発⇒河和田デジタル工房開設(漆器職人に3D技術を指導：3Dプリンター活用等)
- ③商品企画⇒企業コラボ商品の開発(thermo-mag社：日常使いが可能な商品に漆塗り)
- ④新素材開発⇒石灰石由来の新素材“LIMEX”、東洋インクの漆黒インク“ZENブラック”との協業
- ⑤販路開拓・産地PR⇒首都圏で5産地連携イベント(ポップアップショップを開設)
- ⑥産業観光・産地巡礼型観光モデル(インバウンド)⇒留学生が年2回来鯖して検証



プロジェクト拠点“COTOBA”



伝統の「塗り」の技と近代商品との融合 “URUSHI TUMBLER”



河和田デジタル工房の設置



LIMEX製の漆iphoneケース



丹南5産地連携イベント
日程：H28.7.15～21
場所：丸の内KITTE
来場者：約2万人（7日間）



同大留学生×地域住民で
鯖江の魅力発見をテーマ
にワークショップを実施

産学官連携による新分野開拓「津田塾大学」との連携

【H29～ 地方創生推進交付金事業】

“2020年東京オリ・パラと連動した「めがねのまちさばえ」強化事業”

【目的】

2020年東京オリ・パラ開催を商機に、訪日外国人用土産品、海外向け産品を開発

→ 海外でも通用する鯖江製の開発

- ・ 同大学生の若い「感性」・「アイデア」を活かした土産品を開発(帰国子女も多く在学)
- ・ 学生の外国語力を活用し、製品説明文を多言語で開発
- ・ 東京五輪の主会場(新国立競技場)に隣接する同大。会期中は国際文化交流拠点となる予定。
→ 五輪会期中、大学構内に「アンテナショップ設置」、職人による「実演・体験・交流」も計画
- ・ デザイン指導・試作では、「慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科」が強力サポート



デザインシンキング手法、
商品企画・販売の基本を学ぶ講座



製品企画ワークショップ



学生が企画した
ポップコーン用スプーン (試作)



学生による現地調査
(H30.3.22付 日刊県民福井)

その他にも・・・

第2回社会・地域連携シンポジウム(鯖江市連携SDGs啓発イベント)の共同開催

(H30.9.22、津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス)

- ・ 鯖江市長による講演「鯖江市の女性活躍の歴史と現状」、鯖江市役所JK課による活動発表
- ・ パネルディスカッション「鯖江市は全国のSDGsモデルになりうるか」
パネラーは津田塾大学高橋学長、大橋副学長、鯖江市長

産学官連携による新分野開拓「東京藝術大学」との連携

【H29～ 地方創生推進交付金事業】

“「めがねのまちさばえ」次世代産業支援事業”

【目的】

海外でも通用する漆製品の開発→最終目標は、漆文化のユネスコ無形文化遺産登録

- ・ 漆芸学ぶ留学生と産地職人が、新たな漆の「用途」、「形」、「色彩」等を議論・開発
漆芸の第一人者（東京藝大名誉教授 三田村有純氏）が事業をコーディネート
- ・ H29年度は3回シリーズで実施→老若男女の職人(延134名)自らが参加する取組みは初めて
6グループに分かれ、「ボール」、「 Pasta皿」、「プレート」、「宝石箱」を開発



留学生5人(オランダ、ベルギー、フランス、ブラジル、中国)が、亜・欧米の視点で職人に直接助言



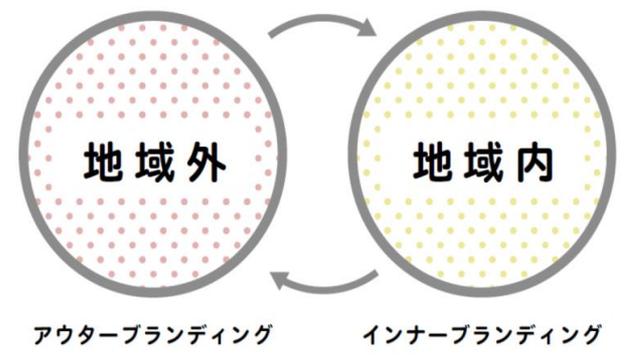
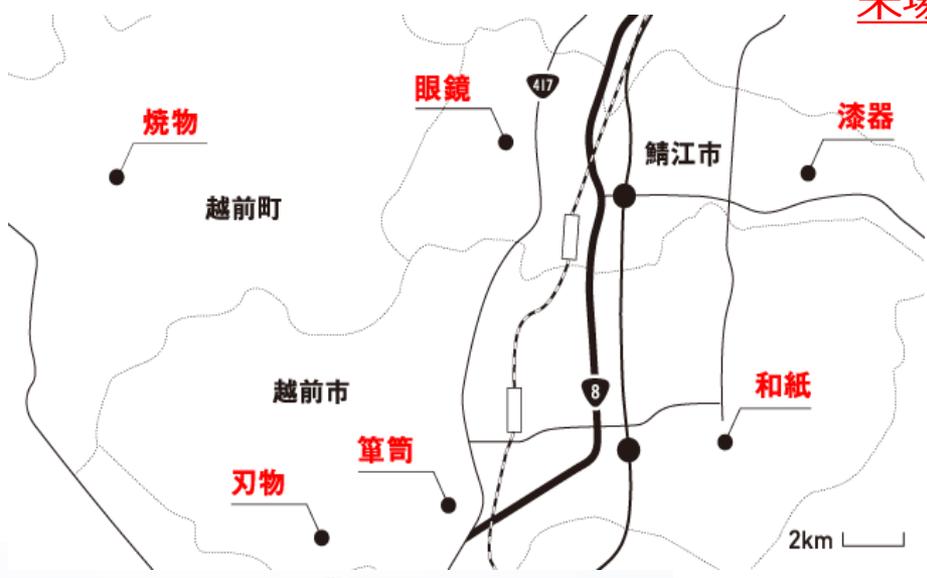
2018テーブルウェアショー(2018.2.4-14、東京ドーム)に開発品を出品→**2作品が見事入賞!**

伝統工芸 5 産地での工房開放イベント “RENEW” (平成27年～)

本市の半径10km圏に、漆器・和紙・打刃物・箆笥・焼物、眼鏡・繊維の地場産業が集積
職人との会話・交流を通じて、ものづくりに親しめる日本最大級の体感型イベント

毎年10月に3日間実施→参加社数110社、来場者38千人、売上15百万円(H30年度実績)

来場者の約6割が県外者。30～40代女性が大半



産地外に、商品・地域のファンを作り、
産地は、消費者に触れることで新たな気づきを生む。





ダイバーシティのまちづくり

学生連携によるまちづくり

◆河和田アートキャンプ (京都精華大学、H17～)



◆大学との連携



津田塾大学との
連携協定締結 (H29.9.25)
2020年東京オリンピック・
パラリンピックを契機とし
た相互発展のための連携



電気通信大学との
連携協定締結 (H29.12.4)
介護・福祉用品分野への新
規参入。世界を舞台に地域
産業の魅力発信・PR



そのほかに・・・

明治大学、二本松学院、慶應義塾大学、
京都精華大学、金沢大学、
福井大学、福井工業大学、福井高専、
仁愛大学、福井県立大学、国立情報学研究所

- H21 地域づくり総務大臣表彰団体部門
- H26 GOOD DESIGN AWARD
- H28 「第6回地域再生大賞」
東海・北陸ブロック賞

鯖江市地域活性化プランコンテスト

鯖江を遊び場に変えるコンテスト

全国の大学生と
中高生を
募集!

市長を
やりませんか?

-Be a Mayor of Sabae City-

市長になったつもりで 鯖江の未来を創る

参加者募集!

■応募期間：2018年5月20日(日)～6月30日(土)

■対象：鯖江市または近隣に在住の中学生・高校生(2人1組)

■コンテスト期間：2018年9月7日(金)～9日(日) ※詳細は裏面へ

■会場：福井県鯖江市 本山誠照寺(本町3丁目2-38)

第11回
鯖江市地域活性化
プランコンテスト

全国の学生が鯖江をよくするためのプランを考え、プレゼンテーションをする地域活性化プランコンテストを開催。

すでに**11回開催**され、**東大、京大、慶応大、早稲田大**などから多数参加。**内閣府、総務省、経済産業省**も後援。

地方新聞46紙と共同通信が設けた「**第8回地域再生大賞**」の**優秀賞を受賞**(H30.1.27)。

◆全国で横展開する地域活性化プランコンテスト

○学生版(H22～)

- ・有田地域活性化プランコンテスト(佐賀県有田町：H24～)
- ・蒲郡地域活性化プランコンテスト(愛知県蒲郡市：H29～) など

○おとな版(H26～、4回実施)

<実現した提案>

- ・鯖江市役所JK課事業(第1回目)、さばえこども商店街aKInD's(あきんず)(2回目)、メガネーランド構想(3回目) など

○高校生版(H28～)

- ・境町高校生まちづくりアイデアソン(茨城県境町：H28～)

○アフリカ留学生版(H28)

- ・アフリカ9カ国の社会人留学生9名が参加(鯖江市：H28.8.26)

鯖江市役所 JK 課プロジェクト

鯖江市役所 JK 課プロジェクトでは、これまでどうしても参加の少なかった高校生、特に女子を対象にまちづくりチームを結成。自らが企画した地域活動に大人を巻き込みながら実践することを通じ、若者・女性が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目指す。

平成26年4月14日にスタートした「鯖江市役所 JK 課プロジェクト」は、現在、6高校（高専含む。）から45人が集まり、5年目の活動を実施。

この事業を通して・・・

JK 課1・2期生19人が今年高校を卒業したが、17人が県内に留まり、内13人が何らかのまちづくり活動を続けている。

JK 課事業の評価として・・・

- ・平成27年度ふるさとづくり大賞地方自治体表彰(総務大臣賞)受賞(H28.1.23)
- ・全国地域づくり推進協議会会長賞(H30.11.12)受賞
- ・高校現代社会副読本(表紙)、高校家庭科副読本(内容)として全国的に利用(H28～H30) など

JK 課事業から広がる活動の輪として・・・

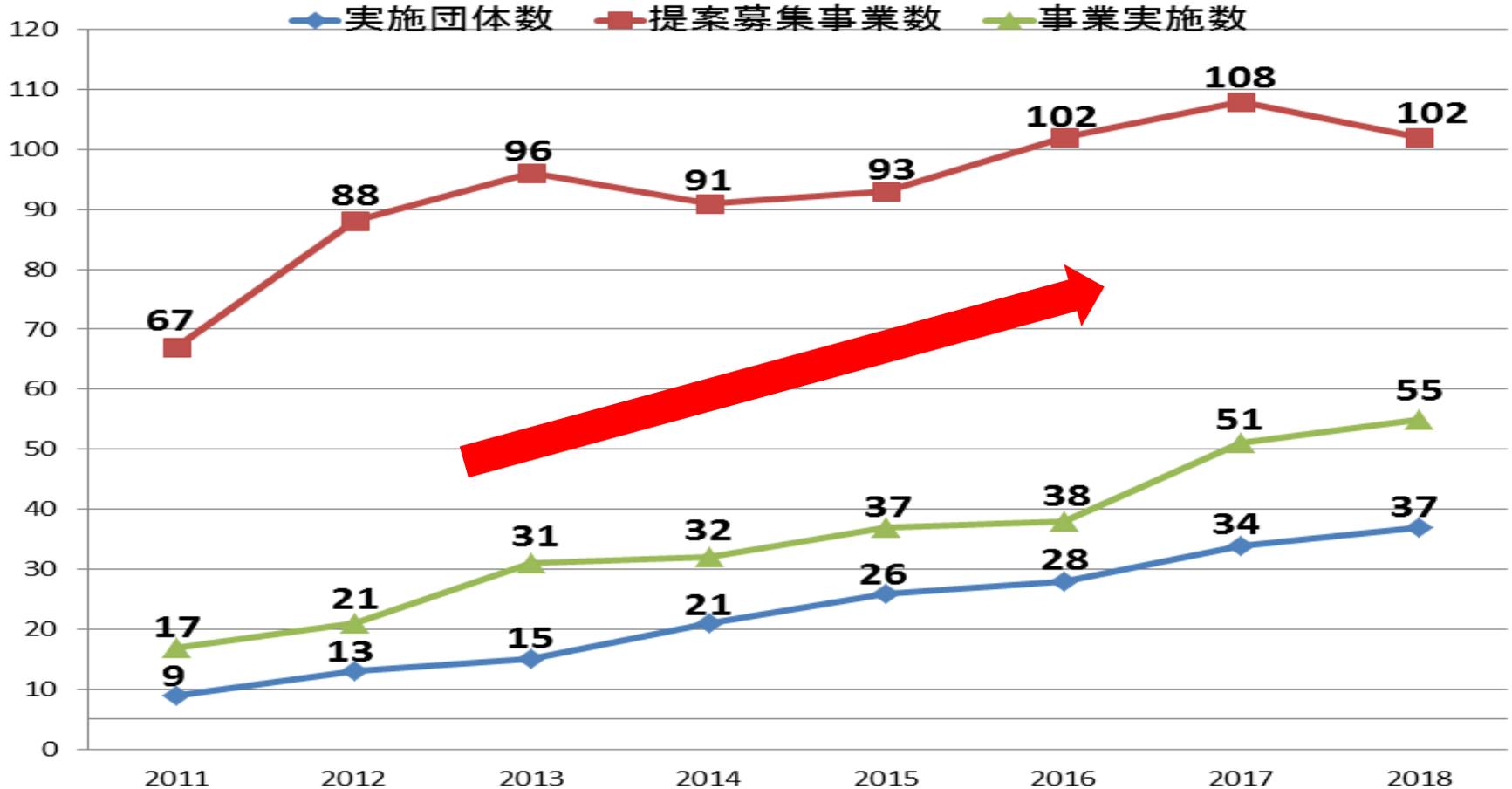
- ・鯖江市 OC 課の結成
- ・他自治体等で JK 課事業の実施
豊橋市役所 JK 広報室(愛知県)、# 高田 JK 会議所(新潟県)、
湖南市役所 JK 課(滋賀県)、日野町役場 JK 課(鳥取県)、
高校生まちづくり課(愛媛県宇和島市、H30～) など



市民協働によるまちづくり

市民主役条例推進委員会の提案で生まれた制度

市民参画部会：提案型市民主役事業化制度(2011～)



- 2018年度の提案募集事業数は102件(H23は67件)。
- 2018年度の事業実施数は、過去最高の55件(H23の約3倍)。
- 実施団体が年々増加するとともに、これまで応募のなかった3団体から提案があるなど、参加する市民の幅が広がっている。

サテライトオフィスモデル事業（H28～）

都市部で誘致セミナーや企業訪問を実施するとともに、現地視察研修を行うことで、サテライトオフィス誘致を目指す。



COTOBA

平成28年5月27日に河和田地区に慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科のサテライトオフィスとして開設。伝統工芸みらいプロジェクトの活動拠点

はたらく人のワクワクをクリエイトする。



(株)あしたのチーム

平成29年11月20日から古町商店街で営業開始。AIを活用した人事評価システムの提供 など



(株)SUI・Products(スイ・プロダクツ)

(株)LIFULL FaM(ライフルフーム)

平成30年3月26日から鯖江高校付近で営業開始。Web制作業務、ママの就労支援 など



(株)メンバーズエッジ

平成30年4月4日に旧かどや旅館で営業開始。システム開発サービス事業



株式会社 LIFULL bizas

(株)LIFULL bizas(ライフルビザス)

平成31年2月から中心市街地で営業開始予定。事務業務などバックオフィス業務の受託、コールセンター業務の受託 など

関係人口（鯖江ファン）の創出

人口減少・高齢化による地域づくりの担い手不足を解消するため、「観光以上移住未満」の範囲で地域に関わる地域外の人材(鯖江ファン)を増やすことが重要。



◆ 「鯖江“育職住”プロジェクト」が総務省の「関係人口創出事業」モデル事業を採択(H30.4.27、全国30団体)

ものづくり産業の魅力を掘り起こしたWebサイト「さばえの仕事図鑑」の作成や、働きやすさ・住みよさを実感してもらう鯖江“育職住”ツアーの企画立案を行うにあたり、都市圏在住の方(5名)に協力してもらう。



活動後には、参加者からのアンケートや都市人材の方々から意見をまとめ、関係人口（鯖江ファン）の創出や移住・定住事業の促進につなげていく。

◆ ほかにもさまざまな事業を展開

- ・鯖江市地域活性化プランコンテスト
- ・河和田アートキャンプ
- ・めがねのまちさばえ応援隊、ふるさと大使 等



内発的オープンイノベーションのまち



◆眼鏡産業

金属枠約250工程、プラ枠約100工程

◆繊維産業

原糸、織物、編物、染色、縫製にいたる多種多様な工程

◆漆器産業

木地から加飾までの様々な工程



いずれも専門化された分業体制

- 人口当たりの製造事業所数は日本有数。ものづくりに携わる事業家を地域社会全体で応援し、地域全体がインキュベーターとしての役割を担うとともに、

アントレプレナーシップを育む。

- 産業の分業制により育まれた「お互い様の心」などの市民性。
- 産地全体が内発的イノベーションを繰り返す。



ものづくり産業を創ってきたのは女性の活躍

鯖江の地場産業における女性活躍

鯖江の地場産業は古くから下請け分業体制であるため、**家族経営が多い**。

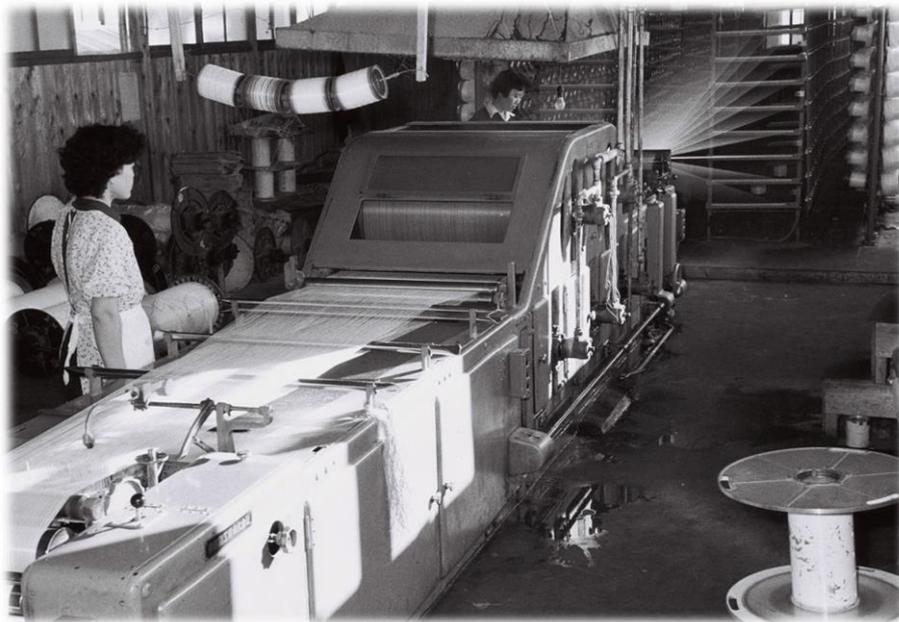


鯖江の女性は経営を担う一員としての役割を持ち、自らの裁量で仕事を回させることにより、

- ・ 仕事に**手ごたえ・やりがい**を持ち、**楽しさ・喜び**を実感する。
- ・ 「仕事」と「仕事以外の生活」を、家族と共に分かち合い、助け合いながら、**仕事と生活を両立**してきた。
- ・ 2世代・3世代同居を通じて、仕事を続ける上で大きな課題となる**育児・介護問題を解決する環境（術）**を作ってきた。



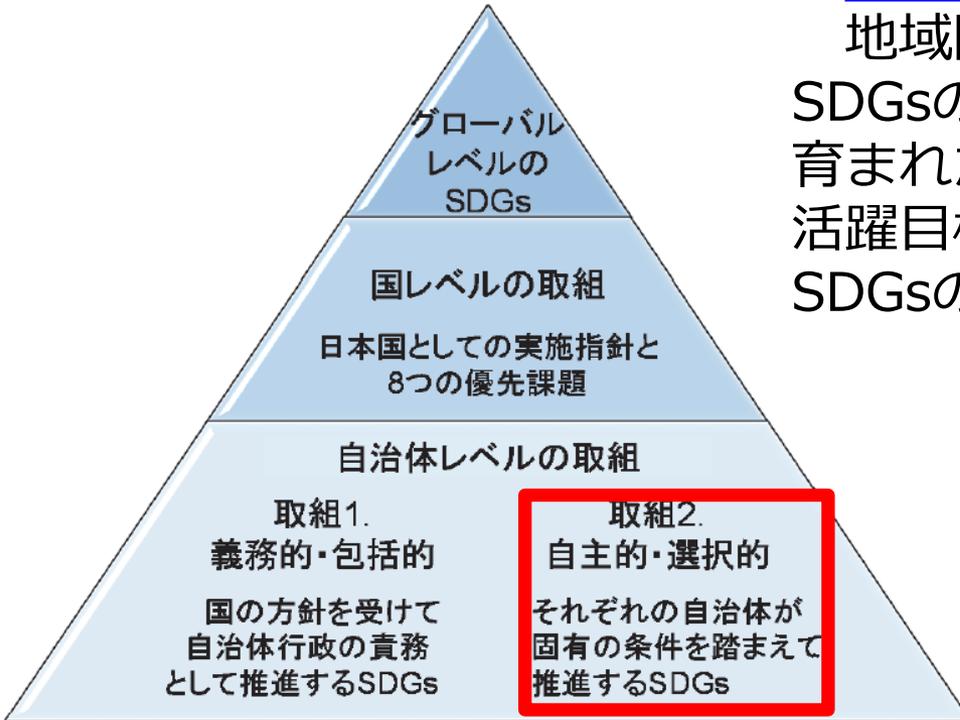
鯖江には、これらの理念が「**鯖江の企業風土**」として息づくとともに、**ワークライフ・バランス**を生活文化の中で編み出し、**実践してきた先進地**である。



自治体におけるSDGsへの取組み(自主的・選択的)

◆自主的・選択的な取組みとは

地域固有の課題に応じて、自治体が実施するSDGsの取組みのこと。鯖江市は、地域風土に育まれた「女性が輝くまちさばえ」において、活躍目標5「ジェンダー平等実現」を中心に、SDGsの目標達成に向けて取り組む。



自治体におけるSDGs導入の枠組み



SDGsをより多くの人々に知ってもらうために作成したコンセプトメガネを活用。コンセプトメガネとは、SDGs17の目標を左右各8目標に分け、それらを目標5の「ジェンダー平等実現」のブリッジでつなぐ。一つのレンズで世界の動きを捉え、もう一つのレンズで地域を考え行動する、メイドインサバエ「グローバル」。

今後の取組みとして・・・

① SDGsローカル2030のキャンペーンにおける眼鏡の活用

- ・リボン運動に準じ、眼鏡をシンボルとした運動の展開。
- ・発展途上国の眼鏡を必要とする人々に眼鏡を寄付する活動をPR。



② 国連のハイレベルフォーラムにおける鯖江市の取組みの報告

国連のハイレベルフォーラムにおいて、鯖江市の女性活躍を中心としたSDGsの取組みを報告する。

③ 「女性の文化と平和に関する国際会議（仮称）」の誘致

国連の友A Pが展開している女性のエンパワーメントを支援を目的とした、「One Woman Campaign」の一環として、日本がホスト国を務める「女性の文化と平和に関する国際会議（仮称）」の誘致を目指す。

④ 国が進めるフォローアップレビューへの参加

国が進めるフォローアップレビューにステイクホルダーとして参加したい。

ダイバーシティのまちづくり

鯖江市にはダイバーシティ（多様性）が実現できる土壌がある。

- ・ オープンイノベーションのまち
- ・ インキュベーターのまち
- ・ アントレプレナーシップのまち
- ・ 女性が輝くまち
- ・ 高校生から高齢者まで活躍するまち
- ・ ホスピタリティのまち
- ・ 学生連携のまち
- ・ 市民主役のまち
- ・ オープンデータによるITのまち



だれもが新しい取組みに挑戦し実現できるまち



今後、**ダイバーシティの実現を更に推進**していくことにより、住民の居場所と出番を作り、**住みたくなるまち**を目指していきます。

● ● ● | ありがとうございます。

